



裏山沿いのオープンデッキには軽平石のタイルを使用。デザイン性はもとより、メンテナンスにも配慮して、いつまでも安心して使い続けられるよう耐久性の高い素材を選んでいる。ハノスランド社では家の雰囲気に合わせてキッチンや洗面台などの住宅設備から収納家具、建具などもオリジナルでの造作が可能。家の中から外まで、トータルで相談のこともできる。



高い天井にかかるダイナミックな太い梁は建築時のもの。古いものの良さを損なわず、アンティークガラスをはめこんだ建具や収納などもオリジナルで造作してコーディネートされている。

吉木展示場 第90年の昭和初期の良家をリノベーションしたもう一つのモデル住宅は和モダンスタイル。薪ストーブのあるリビングや隠れ家コーナーなど見どころ満載だ。『和の家書木』筑前野市大字吉木344-1（見学は予約制）



古民家再生 住宅展示場 **風のくら** 〒818-0046 福岡県筑前野市大字山口2122
見学予約は☎092-922-8771（金土日オープン）
<https://kazekura.com>

長持ちする家づくりの秘訣は本物の素材と職人の確かな技術。レンガを積んで花壇をつくったり、薪を割ってストーブにくべたり。自然を感じながら、自らの手を動かすことを提案する「風のくら」は、これからのライフスタイルを考える手がかりを私たちに与えてくれる。そして、築150年のこの古民家は、無垢の木や漆喰といった自然素材で建てた家は時間が経つほど趣深くなることや、本物の素材が丁寧につくられたものは陳腐化することがなく、次の世代に受け継ぐ価値があるものになることも証明している。古民家のエッセンスを取り入れた住まいづくりを、ぜひその目で確認してほしい。



**土間、薪ストーブ、隠れ家風シアター
自宅でもできる「非日常体験」のすすめ**



四季や自然を感じられる豊かな暮らしを提案

「庭で育てた草花を家に飾ったり、窓から見える景色で季節の移り変わりを感ぜたり。そもそも、住まいといふものは建物と庭の調和で成り立っているものなんです。今回「風のくら」の庭をリノベーションしたのは、建築家の視点から自然や四季を楽しむ暮らしを提案したいと考えたからです」と、ハウスランド社「代表・三上信比古」さんは明かす。特に、この数年、人混みの多い場所でのレジャーが敬遠される一方で、自宅で過ごす時間を豊かにする試みが注目されるようになった。「庭いじりをしたり、バーベキューをしたり、家にいながらアウトドア気分を味わえたり、いりフレッシュになる。家に人を招くにしても、風通しのよいテラスで食事をしたり、庭先でコーヒーを飲んだりするのならお互いに安心。ぜひここで、おうち時間を充実させるヒントを見つけてほしいですね。」

「おうちおとせまつな」
「土間」の活用度は無限大

「風のくら」では、庭だけでなく、家の中と外をつなぐあいまいなエリア「土間」のある暮らしにもふれることができる。この古民家



にもともとあった通り土間をテラコッタタイル張りにして、玄関ホール兼ラウンジに再生、おうちカフェやギャラリー、趣味や創作のための作業空間など、幅広く活用できるようにしている。スペースの角には薪ストーブも設置されており、暖を取りながら煮込み料理を楽しむ冬の暮らしをイメージできる。自ら薪割りをしたり、ストーブの手入れをしたりと、あえて手間のかかることに挑むのも「インテリアメント」になりそうだ。

そのほかにも、ウッドデッキと掘ごたつのある板の間やバスコートのある浴室といった温泉旅館を思わせる空間や、蔵の小部屋につくった隠れ家風「テアトル」も見ることができ、家にはないが非日常を味わえる数々のアイデアは必見だ。